

2019年度 事業報告

丹波篠山市人権・同和教育研究協議会は、発足以来、「差別の現実深く学ぶ」ことを基本理念として、同和問題をはじめ、あらゆる人権課題の解消に向けて取り組んできました。

市同教は、「世界人権宣言」（1948年）の「全ての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ尊厳と権利について平等である」との基本理念のもと、人権尊重の精神を大切に社会づくりに努め、また1916年に施行された「差別解消三法」（障害者差別解消法、ヘイトスピーチ解消法、部落差別解消推進法）の周知と理解、そして実践を、市民の皆様方と共に進めてきました。

研究大会では、大会テーマを「一人一人の人権が尊重される心豊かな地域づくり」とし、基調講演は「人権・同和問題の解決をめざして ～好感・共感・親近感が人権力を育む～」の演題で、明石一朗さんにご講演いただきました。

また、今年度も「差別解消三法」の周知と理解を深める一環として、特別分科会を設定し、部落差別の正しい認識と解消に向けた取り組みの学習を進めました。さらに、今年度は二つの分科会で市内在住の6名の方から基調提案をいただき研修を深めました。このことは、内容や課題をより身近にとらえることができ、自分事にとらえる一助になり成果がみられました。

また、九つの専門部会では、各部ごとに課題を議論し、設定したテーマに沿った内容で研修やチラシ配布などの活動に取り組みました。専門部会を構成することにより、各部会ごとの内容に取り組みことができ、その専門性を生かした取り組みを進めることができました。

「啓発推進委員会」は、これまでの調査研究活動の成果をフィールドワークとして、教職員研修、専門部会の研修、自治会の研修、高齢者部会の研修、さらに他地域からの研修など市内での現地学習により、身近にとらえる学習を進めることができました。

その他、「みんなの人権を考える映画会」では、ドキュメンタリー映画「こんばんは」を上映し、学校へ通えなくなった若者たちの懸命に生きる夜間中学校の状況を知ることができました。

会報は、市名変更に合わせ今年度より「人権・同和教育だより 丹波篠山」と改称し、市同教と市民の皆様とをつなぐ情報誌として、さらに親しみやすく読みやすい工夫をし、活動内容の紹介やコラムを掲載し、市同教活動の理解につなげるよう努めました。

また、今年度も、市・各関係機関・団体と連携・協力して活動を進めてきましたが、さらに全市民組織として連帯を強め活動を進めていきます。差別解消に向け、さらなるご理解ご尽力を賜りますようお願いいたします。

1 丹波篠山市人権・同和教育研究大会

- ①日 時 2019年12月7日(土) 13:00～16:15
- ②場 所 四季の森生涯学習センター・丹南健康福祉センター・市立中央図書館
- ③参加者 350人
- ④テーマ 「一人一人の人権が尊重される心豊かな地域づくり」
- 基調講演「人権・同和問題の解決をめざして
～好感・共感・親近感が人権力を育む～」
講師 明石 一郎さん(関西外国語大学教授・人権教育思想研究所長)
- 分科会
- 特別分科会「部落差別を正しく認識し、解消に向け取り組もう」
講師 細田 勉さん(部落解放同盟兵庫県連合会副委員長)
- 第1分科会「高齢者が安心して暮らせる地域づくり」
講師 山崎 義博さん(西紀北地区草山郷づくり協議会会長)
- 第2分科会「日々の暮らしを見直し、男女共同参画に取り組もう」
講師 勝木 洋子さん(神戸親和女子大学教授)
- 第3分科会「障がいのある人と共に暮らせる地域づくり」
講師 高見 郁雄さん・谷田 佐栄子さん・宮崎 敏美さん
酒井 智彦さん・吉田 賀津子さん
(身体障害者福祉協議会)
- 第4分科会「いじめ、差別を許さない子どもを育てるには」
講師 幸田 英二さん(人権ワークショップ研究会代表)

⑤実施状況

「すべての人の幸せにつながる人権のまちづくり」という方針の下に大会テーマを設定しました。基調講演と5つの分科会の2部構成で行いました。

全体会の基調講演では、「人権問題の解決を目指す方向」と「人権学習・同和学习」について、現状や課題、展望や見通しについてお話いただきました。

また、分科会では、部落差別解消推進法が施行されて以来、特別分科会として講演会形式で部落問題を考える分科会を設けました。さらに、高齢者の人権問題はどの地域でも関心が高く、地域課題に密着したテーマと講師を選んだことで関心をもって参加していただきました。男女共生問題や子どもの人権の分科会ではワールドカフェ方式(ワークショップ)で参加者主体の話し合いを進め、本音で語り合えました。障がい者の人権を考える分科会では、障がいを持つ方5名を講師として迎え、社会的な障壁や地域社会に望むことをパネルディスカッション形式でお話いただきました。どの分科会もワークショップやパネルディスカッション形式等の方法を工夫したことで主体的に参加していただきました。課題としては、人権・同和問題は、暗くしんどい話になるというイメージがあり、自主的な出席が少ないことがあげられます。しかし参加した方は、アンケートによると「有意義な時間が過ごせた」と満足感を持たれています。

専門部事業

1) 保・幼部会

- ①日 時 2019年10月21日(月) 18:30~20:00
- ②場 所 丹南健康福祉センター
- ③参加者 74人
- ④テーマ 「子どもをすくすく育てよう～悩む親へのアドバイス～」
講師 仲島 正教さん(教育サポーター)
- ⑤実施状況

西宮市で21年間小学校教師、その後、教育行政職を務められた経験を踏まえ体験談を交えながら、親として教育者としての本当の役目は何かをお話いただきました。子どもをつまづかせないのではなく、つまづきを乗り越える力をつけること、そのために、家庭や学校で「心の銀行」に優しさや愛情の貯金をいっぱいにするのが親、教師、そして、大人の役目である。心の銀行にいっぱい貯金をするために学校(園)で、家庭で、地域でどのように関わっていったらいいのか具体的に示していただきました。悩んだときにはとにかく子どもと遊ぶ。そうすると子どもとの距離が縮まる。忙しいときには10秒の愛を……。また、「感動が心を育てる。感動がなければ心は変わらない。」から、たくさんの絵本の紹介もありました。私たち大人が「子どもの未来の応援団」であり続けたいと思える研修となりました。

2) 学校部会

(1) 第1回研修会(フィールドワーク)

- ①日 時 2019年8月29日(木) 8:30~12:00
- ②内 容 「丹波篠山の人権史跡を訪ね、先人の生き方に学ぶ」
- ③コース 城東支所→万屋半左衛門慰霊碑→本明谷マンガン鉱山跡→柿木蔵→藤木幸助碑→曾地刑場→城東全村教育→城東支所
- ④参加者 30人
- ⑤テーマ 「篠山の人権史跡を訪ねて」
講師 酒井 雅子さん 井関 裕子さん(市同教 啓発推進委員)
畑 善継さん(市同教 事務局)
- ⑥実施状況

篠山には人権史跡が多くあります。そこで、若い教職員が人権問題、同和問題、在日韓国朝鮮人問題について学ぶ場が少なくなっているという現状を踏まえ、できる限り若い教職員の参加を募り、フィールドワークを実施しました。

見学場所は、万屋半左衛門供養塔、柿の木地藏、曾地刑場、城東村全村教育(城東小)を訪れ、厳しい圧政や厳しい部落差別の実態、その差別を解消しようとして生涯をかけた人々、人間らしく生きようとする人々の姿に学びました。本明谷マンガン鉱山跡を訪れ、戦争の激化時には政府指定鉱山となり、朝鮮人に重労働に従事させたことも知りました。また、藤木幸助記念碑から、現在も医薬品に使用されているタカジアスターゼ発見における陰の功労者としての生き方に学ぶ機会となりました。

「差別解消」を担うのは「教育の力」であることを自覚し、身近にある地域教材を有効に使いながら差別解消に取り組んでいかねばならないと痛感しました。

(2) 第2回研修会

- ①日 時 2020年1月9日(木) 15:00~16:40
- ②場 所 丹波篠山市民センター 催事場
- ③参加者 60人
- ④テーマ 「道徳で実践する人権教育」
講師 春川 政信さん(三木市人権・同和教育協議会副会長)

⑤実施状況

長年の小学校、中学校勤務経験、教育行政職や管理職の経験、そして、現在三木市人権・同和教育協議会副会長として取り組まれている中で、学校教育全体を人権の視点で見えていくことの大切さをお話いただきました。道徳の年間指導計画に「人権教材」を必ず入れること。「道徳」の授業に人権教育の視点を明確にし、内容項目と人権項目を合わせて考えると人権の視点からも多様な意見が出て、深まりのある授業になること。いじめや差別を解消する力をつけられる実践であってほしいこと。そのためには教育活動全体を通して人権教育を推進していかなければならないこと。このような内容を自身の教諭、管理職の経験や研究会の講師をされて実際にあった授業の様子、子どもの発言をより具体的に提示され、非常にわかりやすく、あふれるパワフルな講演でした。子どもに寄り添い、子どもと一緒に人権について考えたい研修でした。

3) PTA部会

- ①日 時 2020年1月26日(日) 13:30~15:00
- ②場 所 丹南健康福祉センター 研修室
- ③参加者 59名
- ④テーマ 「SNSやインターネットによる人権侵害～ネットの向こうには人がいる～」
講師 竹内 義博さん(ソーシャルメディア研究会)

⑤実施状況

○「SNSでのトラブル」について

- ・文章として書いた言葉の微妙な意味が通じていないため、いじめに発展する。
例 「このぬいぐるみかわいくない」…問いかけているのか、否定しているのか、紛らわしいから問題が起こる。
- ・「出会い系サイト」の利用は減少しているが、SNS利用者は増加している。その原因は、寂しさや孤独、ネット上の相手は優しく話を聞いてくれる等があげられる。
- ・大人のLINE(メール)は手紙・付箋・メモ的な要素があり、時間を空けても問題ないが、子どものLINE(メール)は会話であり、即対応が必要になってくる。だから、LINEから目が離せなくなる。
- ・SNS(ゲーム)全くしない子と1時間だけする子の学力の違い
1時間だけする子----1時間でやめられる子(自律した子)
まったくしない子----何にも興味ない子

○「対策」

- ・親子でのコミュニケーションが必要。
 - ①子どもが困った時に相談できる親子関係になっているか。
 - ②ネット上でつながっている人を親が知っているか。
 - ③子どもの常識を知り効果的に伝える。
 - 日頃からネットやスマホの事を話し合う
 - 日頃の日常会話が困った時、保護者への相談につなげる。
 - 親子ともにひとりで抱え込まない。

○ルールづくり

- ・子ども自身がルールを作る。
- ・内容は具体的な内容にする。守れなかった時のルールも決める。

○まとめ

フィルタリングをかけることが大切である。と同時に「親としてのフィルタリングを發揮していく事が最も重要である。また、自己管理できる子どもたちに育成することがやがて「自分を大切にする」ことにつながり、また、声かけ（挨拶）をすることが「相手を思いやる・違いを認め合う」心を育てることになる。

4) 障がい者部会

(1) 啓発チラシ配布活動

- ①日 時 2019年12月3日(火) 5日(木) 8日(日)
- ②場 所 JR篠山口駅、バザールタウンをはじめ市内11カ所で実施
- ③参加者 部会構成団体 72人
- ④キャッチコピー 「知ることからはじまる 心と心の通じ合い」
- ⑤実施状況

障害者週間12月3日～9日に合わせて実施しました。本年度は、各団体で協力して作成した啓発チラシをより多くの人たちに配ろうと日曜日を含め3日間に増やし、11カ所の配布場所で行いました。また、受け取りやすいよう「ティッシュ付きのチラシ」にして、丁寧な呼びかけと併せて配布しました。

立ち止まって、聞いていただいた方もあり、障がいに対する関心と理解が深まる啓発活動となりました。

(2) 研修会

本年度は、障がい者部会の理事が講師を務める12月の市同教研究大会の「障がいのある人と共に暮らせる地域づくり」の分科会に参加しました。講師は障害者福祉協議会の5名の方にお世話になり、生活をする上での物理面、心理面での社会的障壁や今後、社会に望むことを中心に、パネルディスカッション形式でお話をしただき、有意義な研修となりました。また、合理的配慮についても考える機会となりました。

5) 男女共生部会

- ①日 時 2019年11月11日(月) 13:30～15:00
- ②場 所 丹南健康福祉センター 第1会議室
- ③参加者 26人
- ④テーマ 「男女共同参画を推進するために～女性活動を阻むのは誰か～」
講師 勝木 洋子さん(神戸親和女子大学教授)
- ⑤実施状況

男女共同参画社会とは「男性も女性も意欲に応じて、あらゆる分野で活躍できる社会」をいいます。勝木さんは、丹波篠山市の男女共同参画について、まだまだ消極的で、もっと推進すべきと指摘され、参加者からも今回の女性ばかりの研修会に男性の参加をもっと呼びかけるべきとの意見が出ました。2007年に日本で生まれた子どもの半数は107歳より長く生きると推計されていて、私たちの平均寿命も男性80.9歳、女性87.1歳と長寿命化しています。今の私達が未来の子ども達に起こせるもの…それは、世の中の「男女」という「すりこみ」や「思い込み」(アンコンシャス・バイアス=無意識の偏見)に気づく機会や「ありのまま」「自分らしく」「自分を大切に」(ダイバーシティ=多様性)を伝える場(コミュニティーやPTA)が必要であり、近年では、LGBTs(セクシャルマイノリティー) SOGI(性的指向、性自認の多様性)や、男性の育休取得など、誰もが生きやすい男女共同参画社会を推進することであると学びました。

6) 宗教部会

- ①日 時 2020年2月13日(木) 13:30~15:00
- ②場 所 丹波篠山市民センター 多目的ホール
- ③参加者 152人
- ④テーマ 「高齢社会で高齢者が元気に生きるために」
講師 関根 聡さん(大阪女学院・短期大学教授)

⑤実施状況

本部会は、宗教者、各寺院寺総代、神社宮総代等の方々で構成され、例年多くの方に参加いただいています。本年度も平日の昼間にもかかわらず150名を超える皆様を迎えて開催することができました。

今回は、超高齢化社会を迎えている丹波篠山市の現状を、データをもとに具体的に明らかにし、そのような状況の中、今の私たちにはどのような生き方が求められているのかについて講話をいただきました。丹波篠山市だけでなく小学校区毎のデータも用意されており、参加者にとっては大変興味深く、他人事ではなく自分のこととして関心をもって聴くことができました。昨年日本全体の高齢化率は28.4%ですが、丹波篠山市内ではほぼ50%といえる小学校区が2つあり、全体でも34.1%と全国平均を大きく上回っています。これが10年後の2030年には丹波篠山市の高齢化率は40%を超えます等、次々と示されるデータに市の現状が切実であることが伝わってきました。このように超高齢化が進んでいくと、当然、要介護者も増えていくこととなります。そのような状況の中で高齢者の尊厳が確保され、安心して生き生きと暮らせる地域社会を創りあげることが早急の人権課題です。また、要介護者だけではなく養護者が孤立したり精神的に追いつめられたりすることなく自分の生活を送れるようにすることもまた人権課題です。これら超高齢化社会における人権課題について講師の関根聡さんより詳しくお話いただきました。

7) 企業部会

(1) 第1回研修会

- ①日 時 2019年12月16日(月) 18:30~20:00
- ②場 所 丹南健康福祉センター 第1会議室
- ③参加者 36人(管理職対象)
- ④テーマ 「安心して働ける職場づくり」
講師 和田 章さん ((株)日本ジャイアントタイヤ)

⑤実施状況

企業部会第1回の研修は、管理職を対象として行いました。

和田さんは、自社の取り組みから「少子高齢化が進み、多様な働き方が求められ、女性の社会参画や外国人の雇用など、労働環境は更に変化するものと推察される。しかし、人権の保持については、変えることのない普遍のものでなければならない。故に社会基盤の一助を担う企業として遵守することのみにとらわれず、社会規則を整えることを契機として社員一人一人が信頼と尊重を築き上げていくことが重要」と話されました。

私たちは、誰もが笑顔で働ける職場を望んでいます。多様な働き方を選択すると、影響を受ける者同士のコミュニケーションがとても大切となります。パワハラ・セクハラ等の差別行為を防ぐために、ルール、施策として対処することこそ、各人のワークライフ・バランスを阻害することのない「安心して働ける職場づくり」につながると学びました。

(2) 第2回研修会

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。

8) 高齢者部会

高齢者の人権学習は、単位老人クラブや自治会との合同で開催されました。内容は「分かりやすく、楽しみながら学びたい」「自分の住む地域のことを知り、考えたい」という願いから、「日常生活と人権」「酒造出稼ぎの門戸が開かれるまで」等をテーマとして実施しました。

老人会組織が減少傾向にある中、実施困難なところもありますが、他地域の老人会組織と合同で開催される等、工夫をしながら意欲的に取り組まれました。実施した学習内容と会場は、資料として添付しています。

9) 地域部会

(1) 地域部会研修会

①日 時 2020年2月4日(火) 19:30~21:00

②場 所 四季の森生涯学習センター東館 大研修室

③参加者 65名

④テーマ 「生き生き 人づくり 街づくり」

講師 向井 祥隆さん(日置地区まちづくり協議会事務局長)

⑤実施状況

講師は国際理解センターやいぬい福祉村に関わられていて、国際理解においては、「外国人が増加する中、地域で外国人の暮らしを少しでも支えられれば、お互いの人権が尊重される地域づくりができる。」いぬい福祉村の関わりからは、「障がいは、その人本人が障がいではなく、環境が障がいを生む。環境がもつ障がいを取り除けば障がいはなくなる。」というお話を聞きました。さらに、福祉については、「『誰かに世話になる』という思いから、福祉やボランティアを重荷に思う人がいる。気持ちの負担にならないような福祉やボランティアをすべきである。ボランティアをする人はボランティアに生きがいを見つけている。一人一人ができることを見つけて、趣味や特技を生かす場・輝く居場所づくりをすることが一人一人を大事にすることになり、地域づくりにつながる。向こう三軒両隣、近所つき合いすることが助け合いにつながり、いざという時の力になり命を救うことになる。『無財の七施』、金がなくてもできることがある。幸せに生きる社会にしてこそ、だれもが幸せに暮らせる。『部落差別の現実から学ぶ、人権を学ぶ』とは、立ち上がる姿から学び、しあわせを追求することである。」との講話から、お互いを尊重すること、居場所や活躍の場を作ることが人権を守り、人権の地域づくりにつながることを学びました。

3 啓発推進委員会

啓発推進委員会においては、これまでの調査研究活動の成果を講師・ゲストティーチャーとして、市同教の諸部会や学校教育、外部の人権関係団体の学習・研修に取り組みました。教育・啓発活動へのより効果的な取組や様々な学習・研修依頼に対応できる組織を検討しました。

4 「みんなの人権を考える」映画会

①日 時 2019年8月11日(土) 14:00~16:00

②場 所 丹波篠山市民センター 多目的ホール

③参加者 34人

④テーマ 人権映画「こんばんは」

この映画は、20年前に東京都墨田区の夜間中学校で撮影されました。町工場の社長や在日コリアンのハラボジ（おじいさん）、中国からの残留孤児、南米からの日系人、いじめや引きこもりで学校へ通えなくなった若者たちが主人公です。

映画を視られた方からは、「人間の温かみを感じた。」「苦境の中でも懸命に生きる姿に感動した。」と感想を述べられていました。

5 フィールドワーク

- ①日 時 2019年8月25日（日） 8：30～15：00
- ②コース 城東公民館→豊林寺→柿木地蔵→白井半左衛門供養塔→本明谷マンガン鉱山跡→藤木幸助記念碑→曾地刑場→中立舎→城東公民館
- ③参加者 24人
- ④テーマ 「丹波篠山市内の人権史跡を訪ねて」
講師 中野 佳代子さん・井関 裕子さん・河南 崇さん
酒井 雅子さん・松原 薫さん
(丹波篠山市同教 啓発推進委員)

⑤実施状況

本年度は、これまであまり行ったことのない大芋・福住・城東地区を中心とする東部地区7ヶ所の人権史跡を探訪しました。どの史跡も初めて訪れる史跡で、参加者には新鮮に感じていただきました。

「参加させていただき、新たな発見がたくさんありました。講師さんの説明はよく分かりすばらしかったです。」「篠山に生まれ、15年前に戻った身ですが、初めて知ること、初めて訪れる場所が多く、貴重な体験となりました。」

「今回で3回目ですが篠山東部に来ることがあまりなくて訪れたところは初めてで、たくさん知れて良かったです。地元篠山をまだまだ知らないので機会があればまた参加したいです。」「現地で解説していただくとその時代ごとに生きておられた方の生活や思いが感じられました。人も自然も史跡も大切にしていきたいし、改めてふるさとの素晴らしさに触れて嬉しくなりました。いろいろと研究し伝えていただく方々のお陰です。」など、参加された方から感想をいただきました。

6 連携推進事業

(1) 兵庫県人権教育研究協議会・丹波地区同教・丹波市同教との連携

丹波地区人権・同和教育研究協議会の研究大会、役員研修会、啓発冊子編集作業に関わるなど、市域を越えた交流を行い、様々な課題について協議を行いました。丹波市同教とは、交流や情報提供をしながら連携を進めてきました。

(2) 部落解放同盟丹波篠山市支部連絡協議会・部落解放共闘会議との連携

丹波篠山市民集会、各種研修会への参加を中心に行いました。

(3) 人権推進課、教育委員会との連携

毎月1回、三者での打ち合わせ会を継続し、研究大会の内容や丹波丹波篠山市の人権課題について協議しました。人権教育の推進や啓発に関わる関係機関として、今後も連携を密にして進めていきたいと考えています。

(4) その他

人権関係団体との連携

7 研究大会・研究集会への参加

(1) 第66回兵庫県人権教育研究大会丹波地区大会

- ①日 時 2019年7月27日（土）9：30～12：15
- ②場 所 四季の森生涯学習センター・周辺施設
- ③参加者 丹波篠山市より 207人

(2) 第66回兵庫県人権教育研究大会中央大会

- ①日 時 2019年9月29日（日）9：30～16：00

- ②場 所 豊岡市民会館・豊岡南中学校
- ③参加者 丹波篠山市より 64人（内、実践報告者3名・司会者2名）

(3) 部落解放研究第53回全国集会

- ①日 時 2019年10月15日（火）～17日（木）
- ②場 所 名古屋市・名古屋国際会議場
- ③参加者 （丹波篠山市同教より） 1人

(4) 部落解放研究第39回兵庫県集会

- ①日 時 2019年11月16日（土）
- ②場 所 神戸市勤労会館
- ③参加者 （丹波篠山市同教より） 1人

(5) 第71回全国人権・同和教育研究大会

- ①日 時 2019年11月30日（土）・12月1日（日）
- ②場 所 三重県津市・三重県総合文化センター（メッセウイング・みえ）
- ③参加者 （丹波篠山市同教より） 3人

(6) 第33回人権啓発研究集会

- ①日 時 2020年2月26日（水）・27日（木）
- ②場 所 沖縄県宜野湾市・沖縄コンベンションセンター
- ③参加者 新型コロナウイルス感染拡大防止のため不参加

(7) その他

- ・諸研究大会・研究集会に参加して学んだことを各部会や役員会の中で報告し、多くの方々に広げています。

8 会報の発行

会報「人権・同和教育だより丹波篠山」を6月・10月・2月の年間3回発行しました。「人権が尊重されるまちをつくろう」「身近な生活の中から学ぼう」をテーマに、6回の編集会議を開催し協議しました。分かりやすく、読みやすい紙面になるよう、工夫しました。

9 市民への学習支援

講師紹介や参考資料の紹介等、各団体や一人一人の研修や学習を支援しました。

10 図書・出版物の紹介

図書・出版物を購入し閲覧しました。

2020年度 基本方針並びに活動方針・事業計画

基本方針

1. 我が国の社会に今なお存在する部落差別をはじめ、あらゆる人権課題の解消を図り、すべての人の幸せにつながる「人権のまちづくり」を推し進めます。
2. 「障害者差別解消法」「ヘイトスピーチ規制法」「部落差別解消推進法」等人権関係法令の趣旨を踏まえ、人権確立をめざす個人、団体、機関等と広く連帯し、差別のない共に生きる社会をめざします。
3. 市民の人権・同和教育の学習活動の場を確保し、差別を許さない市民意識の醸成、人権意識の高い人づくり・世間づくりに努め、こころ豊かな共に生きる市民社会をめざします。

活動方針

丹波篠山市人権・同和教育研究協議会は、発足以来「差別の現実に深く学ぶ」ことを基本理念として、同和問題をはじめ、あらゆる人権課題の解消に向けて取り組んできました。日本国憲法の基本的人権の尊重の精神や「世界人権宣言」の基本理念が、人権尊重の精神を大切にした社会づくりの理念の浸透に大きな役割を果たしてきました。

しかしながら、私たちの社会は、高度情報化、少子高齢化、産業構造の変化やそれに伴う経済格差の拡大等々多くの問題を生じ、その結果、人間関係の希薄化や地域内での連帯感の欠如を生み、他人の痛みに関心になるなど人権に関わる大きな問題を発生させてきています。また、時代の変化と共に、認知症に関する無理解や偏見、児童や高齢者への虐待、子供や若者の貧困、災害避難者へのいじめ、DV、ストーカー行為、LGBTなど性的マイノリティーへの無理解など。また、インターネットによる差別情報の氾濫やパワハラ、セクハラが社会問題となっていることなど、まだまだ人権意識が定着していない現実がみられます。

さらに、今般新型コロナウイルス感染症という新たな世界規模の感染に対峙することとなり、先の見えない不安から新たな差別を生むなど人権に関わる問題も見えてきました。

こうした多くの課題解決のために、これらの課題を自分事ととらえ、当事者意識を持つことが、連帯感を培い、共に生きる社会の意識を強めることにつながります。そしてそのことが差別を許さない市民意識の醸成（人権の世間づくり）へと進めることができ、誰もが幸せを実感できる、人権を大切にしたまちの実現へと進めることができます。

本年度も、これらのことを大切にしながら市民の皆様と共に、市民一人ひとりの人権が侵害されることなく、誰もが幸せを実感できる、人権を大切にしたまちづくりを進めます。

最後に、多くの人権課題を前にしている今、そして、未知の新型コロナウイルス感染症に対峙して社会不安の中にいる今こそ、人権を大切にしたまちづくりを訴える丹波篠山市同教の使命は大きくなっています。先人の熱い思いを大切に、互いに学び合い、直面する様々な人権課題の解消に真摯に取り組んでまいります。

全市民参加の教育研究組織として、さらなるご理解、ご支援、ご尽力を賜り、諸活動に積極的にご参加くださいますようお願いいたします。

事業計画

1. 第22回丹波篠山市人権・同和教育研究大会の開催 12月5日(土)
研究大会と人権フェスタとを同一日に開催し、三者(丹波篠山市・市教委・丹波篠山市同教)で連携して取り組みます。研究大会は、四季の森生涯学習センターを主会場に、午後、全体会と分科会を開催します。
2. 専門部会
保・幼、学校、PTA、障がい者、男女共生、宗教、企業、高齢者、地域部会の9部会の取り組みを進めます。
9分野別に課題と向き合い、テーマを決めて課題解決につながる学びの場を提供していきます。
3. 人権・同和教育と啓発活動、人材育成活動
各専門部会での研修は、それぞれの場で学びが実践へと発展するよう研修方法を工夫していきます。各団体やグループの研修会・学習会に講師を派遣したり、資料を提供したりして教育・啓発活動を支援します。
啓発推進委員会では、市内の人権史跡を調査・研究し、教育・啓発資料を作成します。得られた研究成果を様々な学びの場(理論研修、実地研修)で提供していきます。併せて、次世代リーダーの育成のために講座を開設します。
4. 「みんなの人権を考える」映画会をテーマを決めて実施します。 8月10日(月・祝)
5. 市同教フィールドワークを実施します。 8月30日(日)
6. 連携推進
部落解放丹波篠山市民共闘会議との連携
丹波地区同教・兵人教との連携
市行政(人権推進課)、市教委、各団体との連携
7. 各研究大会・研究集会へ積極的に参加し、実践交流を図り、市の人権啓発活動に反映させます。
 - ・第67回兵人教丹波地区研究大会 7月25日(土) 四季の森生涯学習センター
 - ・第66回兵人教中央大会 9月27日(日) 淡路地区津名高校
 - ・部落解放研究第41回兵庫県集会 11月28日(土) 三田総合文化センター「郷の音」
 - ・部落解放研究第54回全国集会 11月10日(火)～11日(水) 北九州市
 - ・第72回全国人権・同和教育研究大会 10月31日(土)～11月1日(日) 新潟県上越市
 - ・第35回人権啓発研究集会 12月17日(木)～18日(金) 三重県津市
8. 広報啓発事業
会報「人権・同和教育だより 丹波篠山」を年3回(6月、10月、2月)発行し、市同教の取り組みの状況を知らせるとともに、日々の生活を見つめ、感動することや不合理に感じることを市民で考え合う場となるよう工夫していきます。
また、インターネットのホームページ上で人権に関わる様々な情報を市民の皆さんへ提供していくよう努めます。
9. 市民への学習支援
一人からの学びの要望に応じ、講師や参考資料(図書・出版物等)の紹介等、研修会・学習会を支援(計画から実施)を行います。
10. その他、目的達成に必要な事業